

過去に投げたブーメランが、今の自分。 維新の舞台で、居酒屋志士が語ったこと。



例えば、この人が、
合コンを仕切ったら…

例えば、例えば、である。この人が合コンの司会をしたら、きつと開始直後からトップフォームだ。ホップクラブ主催の定例講演会

今回のゲストである大嶋啓介さんは、まず200名の聴衆に「本気のジャンケン」をさせた。「本気のジャンケン」とは、何か。人生をかけたジャンケンである。グー・チョキ・パーの3手に、魂を込める。200名が一斉に手近な相手と勝負に及ぶ。ルールは、勝っても負けても「人生をかけたリアクション」をとること。

ほとんど、関の声である。ジャンケンにも、そこで交わされた会話にも、さほど意味はあるまい。会場を満たした何dBかの音量こそが問題である。各々の言葉で叫んだ、その勝ち関のような声か。
今まで色んな傑物がこの講演会で講話をしてきたが、聴衆を巻き込んだ、という意味では、今回が一番だったろう。

病は気から、言葉から
「疲れた」は禁句だそうで

言葉には意味や理があり、深い力がある。それを人は「言葉」と呼び、本誌のようなペーパーメディアでも「言葉」は大切なものである。「飲食界の風雲児」の異名をとり、居酒屋「てっぺん」のトップに君臨する大嶋さんだが、11年前、この業界に

エントリーした直後に経験したのは、人間関係に打ちひしがれ、引きこもり、鬱になったことだった。当時の上司に「辞めてもいい。だがその前に行っていい」と言われた3日間のセミナーで持ちこたえた。同じような苦しみを、今抱いている方には甚だ乱暴かもしれないが、そこで学んだのは「病は気から。病は、言葉から」ということだったそう。もちろん脳科学の権威による、根拠のある金言である。脳に影響を与えるのは、言葉、表情、動作だそう。ちなみに、「疲れた」という言葉は、最も脳に悪影響を及ぼすらしい。ご注意ください。

いつかはなりたいたい職業No.1
スポーツ選手→居酒屋人

「居酒屋で、働きたい！」。そんな思いを持っている小学生、中学生がどれほどいるだろうか。「髪を切る」ということを、衛生産業からファッション産業にする必要があった」と言ったのは、美容師界の風雲児、綾小路千代だった。大嶋さんが言わんとしていることは、そういうこと

なんだろう。なりたいたい職業1位の座を、スポーツ選手から居酒屋がいつか奪ってやろうと。

企業の根底は、人。仕事に向かう姿勢だとか、組織のあり方、なんて話は、どんな商売でも根底は同じである。「できる人はどこに行っても、どんな職場でもできる。我々が欲しているのは、そこに少し至らないという人材。もう一步、という人材が、できる人になる組織である。」これはラーメン界の風雲児「来未亭」社長・豆田敏典さんの言葉である。そんな言葉に、明日の光を見る人がひとりでもいれば、それで良い。

人生は、ブーメラン
投げて戻ってきたのが、今

人生に、方程式はあるか？ 人生は、数式か？「人生は、こうなっている」という式である。「人生をそんな計算で語れるものか」ということ意見もある。人生とは、もっとウエットなものだ、と。もっともである。

だが、それが、と大嶋さんは言う。34歳の現在、そこには結果がある。つまりそれが、解である。解があるなら、式がある。つまりそれは、プロセスである。今、この瞬間までの全ての時間（人生と違って）も良い。行動だ。それを大嶋さんは「ブーメランの法則」と説明した。いま投げたものは、未来に返ってくる。逆説的に言えば、過去に投げたものが、今なのである。

あらゆる職業に当てはめて、いや、個々の人生に当てはめても、それは同じ真理と言えるだろう。

明治維新の傑物に
さて、我々は何を見る？

明治維新の傑物が46人も勢揃いしている、豪華な写真がある。

勝海舟、初代内閣総理大臣・伊藤博文、大河ドラマで瑛太が演じた小松帯刀、維新三傑の大久保利通、西郷隆盛、桂小五郎、他にも陸奥宗光、大村益次郎、高杉晋作、そして、大嶋さんが敬愛する坂本龍馬…。

主立った維新志士たちの、当時の年齢は坂本龍馬31歳、高杉晋作27歳、桂小五郎32歳、伊藤博文25歳…。彼らが投げたブーメランの軌道は歴史書に詳しい。大嶋さんは言う、「20代、30代で日本を動かす人になれ」と。大嶋さんにとっては、今は「居酒屋維新」なのだろう。

「居酒屋」の部分で自分の職業や環境を当てはめて、日本の中で自分がどんな位置にあるのかを想像するのは大切なことだし、楽しいことだ。名は残すものではなく、残るもの。明治維新の大舞台となったこの京都で、居酒屋人は、飲食業界人は、そして講演を垣間見た我々は、一つの道標を得たとと言えるだろう。



大嶋啓介 (おおしまけいすけ)
有限会社てっぺん 代表取締役

74年1月生まれ。三重県桑名市出身。「居酒屋は夢や自分を語る場であり、働く人たちが支えてきた場所」という持論のもと、04年1月、目黒区の「てっぺん自由が丘」を皮切りに、現在5店舗を展開。「てっぺん朝礼」という同社流朝礼を「本気の朝礼体験」として一般参加を受け入れたり、06年には「居酒屋甲子園」というNPO法人まで立ち上げるなど、ユニークな働きかけと実行力で、全国から講演のオファー多数。
<http://www.teppen.info/>